

【物件名】

刊行物 7

【添付書類】

5 5

## 刊行物 7

(10) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-309578

(43) 公開日 平成9年(1997)12月2日

(51) Int.Cl.

B 6 5 D 85/20  
83/00

識別記号

庁内整理番号

P I

B 6 5 D 85/20  
83/00

技術表示箇所

Z  
B

審査請求 未請求 請求項の数3 FD (全6頁)

(21) 出願番号 特願平8-148504

(22) 出願日 平成8年(1996)5月21日

(71) 出願人 593230637

太田 悦嗣

東京都中野区本町3丁目2番10号 マンシ

ヨンスズノ401号

(72) 発明者 太田悦嗣

東京都中野区本町3丁目2番10号 マンシ

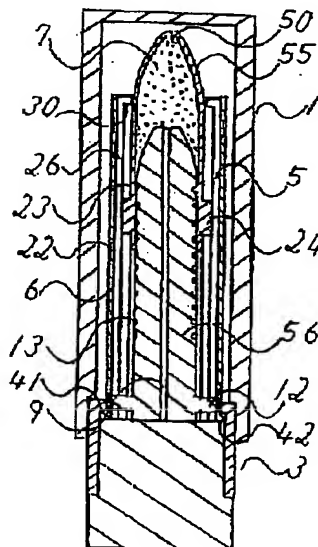
ヨンスズノ401号

(54) 【発明の名称】 棒状媒体用サンプル試供品容器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 棒状媒体用サンプル試供品容器を提供する。

【解決手段】 駆動される主動設定部材56と従動設定部材55から構成され、軸方向移動の開始及び又は解除可能なストッパ13、23、50と、相対移動を防止する抜け落ち防止手段45を設け、当初は、ストッパ13、23、50及び抜け落ち防止手段45の作用で設定部材55、56が固定関係にある、設定部材55・56が共に移動しケーシング5から出し入れする構成で、従動設定部材55が5所定位置に来た時に、設定部材55・56を軸方向に相対移動させる構成の相対移動手段30、24を設け、設定部材55・56をケーシング5の所定位置まで移動して相対移動手段30、24を解除し、サンプル媒体7を一方の設定部材55又は56から押し出す構成になっており、容器の一部又は全体を透明な素材にし、媒体の色や原料確認を容易にする。



(2)

特開平9-309578

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 駆動手段を用いてサンプル媒体設定部材(11)をケーシングから出し入れする構成の棒状媒体用サンプル試供品容器において、

サンプル媒体設定部材(11)が、駆動手段によって直接的に駆動される主動設定部材(56)と間接的に駆動される従動設定部材(55)から構成され、

両設定部材(55・56)に関連付けて、軸方向一方向の相対移動の開始及び/又は継続を直接的に制限する解除可能なストッパ(13、23、50)と、軸方向他方向の相対移動を防止する抜け落ち防止手段(45)を設け、

使用当初は、主にストッパ(13、23、50)及び抜け落ち防止手段(45)の作用で両設定部材(55・56)が実質的に軸方向に固定関係にあって、両設定部材(55・56)が共に移動しケーシング(5)から出し入れする構成で、

従動設定部材(55)がケーシング(5)の所定位置に来た時に、両設定部材(55・56)を軸方向一方向に相対移動させる構成の相対移動手段(30、24)を設け、

必要に応じて両設定部材(55、56)をケーシング(5)の所定位置まで移動して相対移動手段(30、24)を作用させると共にストッパを解除し、サンプル媒体(7)を一方の設定部材(55又は56)から押し出す構成になっており、

容器の一部又は全体を透明な素材にし、サンプル媒体設定部材(11)に設定された媒体の色や残料確認を容易にしたことを特徴とする棒状媒体用サンプル試供品容器。

【請求項2】 従動設定部材(55)の外週に目盛りを設け、サンプル媒体設定部材(11)に設定された媒体の色や残料確認を容易にしたことを特徴とする請求項1に記載の棒状媒体用サンプル試供品容器。

【請求項3】 請求項1・2に記載の取り替え用サンプル媒体設定部材(11)。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、口紅等の棒状媒体に使用される棒状媒体用サンプル試供品容器に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 現在、店頭においては、カラーサンプルの展示と色の確認の為に使用に試供品の展示を同時に行う為に、一方にプラスチックなどで作った疑似体の口紅を装着し、他方に本来の口紅を装着した複雑で高価なサンプル試供品容器を使用している。しかし、プラスチックなどで作ったカラーサンプルの疑似体の色と、口紅本来の色が微妙に違い、どうしても色の確認が必要で面倒であった。また、目盛りした口紅は見栄えが悪く、紅な

どの媒体の鮮度も問題になっていた。さらに、サンプル試供品から得られる使用頻度の情報が曖昧であるという問題があった。

【0003】 そこで、安価で、見栄えが良く、操作性に優れ、繰り返し使用できる棒状媒体用サンプル試供品容器が提案された。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 従来から店頭において使用されている棒状媒体用サンプル試供品容器は、カラーサンプルの展示と、色の確認の為に使用に必要な試供品の展示を同時に行う為に、一方にプラスチックなどで作った疑似体の口紅を装着し、他方に本来の口紅を装着した複雑で高価なサンプル試供品容器を使用している。しかし、プラスチックなどで作ったカラーサンプルの疑似体の色と、口紅本来の色が微妙に違い、どうしても色の確認が必要で面倒であった。また、目盛りした口紅は見栄えが悪く、紅などの媒体の鮮度も問題になっていた。さらに、サンプル試供品から得られる使用頻度の情報が曖昧であるという問題があった。

【0005】 そこで、容器を透明にし、口紅を形どった媒体設定部材を2重構造とし、必要に応じて両設定部材の相対移動を利用して口紅などの媒体を一方の媒体設定部材から押し出し、色確認や色確認の使用を容易にし、鮮度を従来品より長く保つことができる。また、媒体設定部材の外週に設定されたメモリを読み取ることにより、使用頻度の情報が確実に得られ、安価で、見栄えが良く、操作性に優れ、繰り返し使用できる棒状媒体用サンプル試供品容器を提供することを目的としている。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 駆動手段を用いてサンプル媒体設定部材(11)をケーシングから出し入れする構成の棒状媒体用サンプル試供品容器において、サンプル媒体設定部材(11)が、駆動手段によって直接的に駆動される主動設定部材(56)と間接的に駆動される従動設定部材(55)から構成され、両設定部材(55・56)に関連付けて、軸方向一方向の相対移動の開始及び/又は継続を直接的に制限する解除可能なストッパ(13、23、50)と、軸方向他方向の相対移動を防止する抜け落ち防止手段(45)を設け、使用当初は、主にストッパ(13、23、50)及び抜け落ち防止手段(45)の作用で両設定部材(55、56)が実質的に軸方向に固定関係にあって、両設定部材(55・56)が共に移動しケーシング(5)から出し入れする構成で、従動設定部材(55)がケーシング(5)の所定位置に来た時に、両設定部材(55・56)を軸方向一方向に相対移動させる構成の相対移動手段(30、24)を設け、必要に応じて両設定部材(55・56)をケーシング(5)の所定位置まで移動して相対移動手段(30、24)を作用させると共にストッパを解除し、サンプル媒体(7)を一方の設定部材(55又は56)

(3)

特開平9-309578

から押し出す構成になっており、容器の一部又は全体を透明な素材にし、サンプル媒体設定部材(11)に設定された媒体の色や残量確認を容易にしたことを特徴とする棒状媒体用サンプル試供品容器を要旨としている。

【0007】なお、両設定部材(55、56)の軸方向一方向の相対移動は、媒体が送り出される方向の相対移動を意味している。また、設定部材(55又は56)の軸方向一方向の移動は、ケーシング(5)から出る方向の移動を意味している。

【0008】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。

【0009】図1から図3の図面は本発明の実施例を示す断面図である。本発明の棒状媒体用サンプル試供品容器は、ケーシング(5)と、回転部材(6)と、ロック部材(3)と、従動設定部材(55)と、主動設定部材(56)と、キャップ(1)とで構成されている。

【0010】図4はケーシング(5)の正面図である。

【0011】ケーシング(5)は有底の筒状で、その底部は大径と中径の太さの違う2段に設定され、底部から上方に小径の筒壁が延び、その筒壁は第1溝(26)によって2分割され、先端内縁には相対移動手段(30)が設けられている。

【0012】図5は回転部材(6)の斜視図である。

【0013】回転部材(6)は上下が開口した円筒状で、内周面には螺旋溝(22)が設けられ、下部外縁にはロック爪(42)が設けられている。

【0014】図6はロック部材(3)の斜視図である。

【0015】ロック部材(3)は上下が開口した円筒状で、上部内縁にはロック突起(41)が設けられている。

【0016】ケーシング(5)に回転部材(6)を組み込んだ際、ロック部材(3)によって軸方向一方向に相対移動不可能で、且つ、周方向に相対回転可能に着脱式に組み込まれる。

【0017】図7は従動設定部材(55)の斜視図である。

【0018】従動設定部材(55)は口紅を型どった形状で、先端部には媒体押し出し口ストップ(50)が設けられ、外周の中間部には相対移動手段(24)が設けられ、中間部よりやや下部から下縁まで、主動設定部材(56)に設定された突起(12)の通り道となる第2溝(20)が設けられ、第2溝(20)の右側には目盛り(33)が設けられ、内面の中間部には凸ストップ(23)が設けられている。

【0019】図8は主動設定部材(56)の斜視図である。

【0020】主動設定部材(56)は口紅を型どった形状で、先端部は平に整形され、先端部から底部を抜ける空気抜き道(9)が設けられ、外周面には周方向水平に

延びる凹ストップ(13)が互いに平行で従動設定部材(55)に設定された目盛りと等間隔に設けられ、従動設定部材(55)に設定された目盛りの数より一つ多く設けられ、最先端の凹ストップが抜け落ち防止手段(45)となり、下部外周面には突起(12)が設けられている。

【0021】図9(A)は主動設定部材(56)の変形例を示す斜視図で、(B)は従動設定部材(55)の変形例を示す斜視図である。

【0022】この変形例の従動設定部材(55)では、先端部に設定する媒体押し出し口ストップ(50)が複数の小さな穴が設定され、口紅を押し出す際に必要な圧力が高まり、凹及び凸ストップ(13、23)を省略することも可能であり、第2溝(20)の下部に抜け落ち防止手段(45)が設けられている。

【0023】主動設定部材(56)が、従動設定部材(55)内に組み込まれ、抜け落ち防止手段(45)とストップ(13、23、50)によって一体となり、媒体設定部材(11)が構成され、突起(12)がケーシング(5)に設定された第1溝(26)に沿ってケーシング(5)内を上下に共動し、ケーシング(5)に設定された所定位置に来た時、軸方向一方向の相対移動を開始する構成である。

【0024】以下では、便宜上、回転方向を次のように定義する。口紅が出る方向の回転部材(6)の回転方向を正回転方向、口紅が引き込む方向の回転方向を逆回転方向とする。また、口紅がケーシング(5)から出る方向を上方、引き込む方向を下方と定める。

【0025】次に、図1・図2・図3を参照して、本発明の動作を説明する。

【0026】図1は、本発明の棒状媒体用サンプル試供品容器全体を示す断面図である。

【0027】図2は、相対移動手段の始まりの動作を示す断面図である。

【0028】使用当初は、従来の口紅容器と同様に回転部材(6)を回転させて、媒体設定部材(11)をケーシング(5)から出し入れする。

【0029】従動設定部材(55)がケーシング(5)の所定位置に来た時に、すなわち、ケーシング(5)に設定された相対移動手段(30)と、従動設定部材(55)に設定された相対移動手段(24)に係合し、両相対移動手段が完全に係合した状態の位置が相対移動開始位置である。従動設定部材(55)は係止位置を超えて上方に移動できない。

【0030】次に、図3を参照して本発明の実施例のさらなる動作を説明する。

【0031】回転部材(6)をさらに正回転方向に回転する。この時、ストップ(13、23、50)を解除する必要があるため、従来より強い力で回転させる。ストップは、不要意な媒体の出し過ぎや、興味本意の動作を

(4)

特開平9-309578

5

6

制限する効果があり、ストップの作動強度は、それぞれのストップの形状や、大きさの設定によって、簡単に調節できる。

【0032】次に、回転部材(6)を逆回転方向に回転させれば、両設定部材(55、56)は、ふたたび一体となり下方方向に引き込まれる。

【0033】口缸を型どった形状の従動設定部材(55)は、使用後も変形することなく、先端部に強った口缸を拭き取るにより、清潔で、見栄えの良い、サンプル試供品用を提供することができる。また、着脱式に設定されたロック部材(3)を取り外せば、媒体設定部材(11)を簡単に取り出し、色の変更が容易で経済的であり、使用後の媒体設定部材(11)を洗浄し繰り返し使用することができる。

【0034】

【発明の効果】本発明の棒状媒体用サンプル試供品容器によれば、容器ごとに色の確認ができ、しかも、試供品として缸を使用しても、従来の様に口缸が目減りして、サンプルの見栄えを損なうことなく、また、媒体設定部材の取り替えが容易で、容器が繰り返し使用でき経済的である。さらに、疑似体のカラーサンプルと、口缸の色の違いによるさまざまなトラブルを解消した。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例に係る棒状媒体用サンプル試供品容器を示す断面図である。

【図2】本発明の実施例に係る棒状媒体用サンプル試供品容器を示す断面図である。

【図3】本発明の実施例に係る棒状媒体用サンプル試供品容器を示す断面図である。

【図4】本発明のケーシングを示す正面図である。

【図5】本発明の筒部材を示す斜視図である。

【図6】本発明のロック部材を示す斜視図である。

【図7】本発明の従動設定部材を示す斜視図である。

【図8】本発明の主動設定部材を示す斜視図である。

【図9】(A)は、本発明の主動設定部材の変形例、(B)は、本発明の従動設定部材の変形例を示す斜視図である。

【符号の説明】

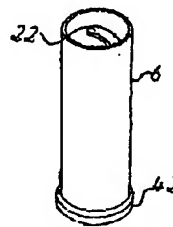
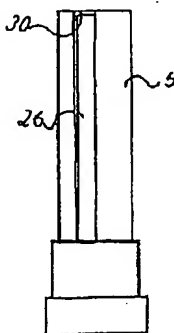
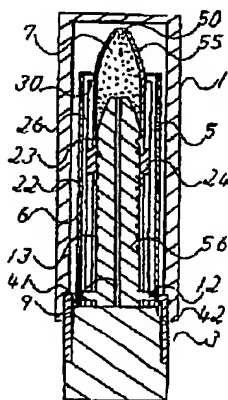
- |     |             |
|-----|-------------|
| 1、  | キャップ        |
| 3、  | ロック部材       |
| 5、  | ケーシング       |
| 6、  | 回転部材        |
| 7、  | 口缸          |
| 9、  | 空気抜き道       |
| 11、 | サンプル媒体設定部材  |
| 12、 | 突起          |
| 13、 | 四ストップ       |
| 20、 | 第2溝         |
| 22、 | 螺旋溝         |
| 23、 | 凸ストップ       |
| 24、 | 相対移動手段      |
| 26、 | 第1溝         |
| 30、 | 相対移動手段      |
| 41、 | ロック突起       |
| 42、 | ロック爪        |
| 45、 | 抜け落ち防止手段    |
| 50、 | 媒体押し出し口ストップ |
| 55、 | 従動設定部材      |
| 56、 | 主動設定部材      |

【図1】

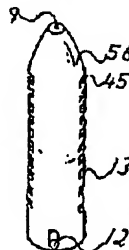
【図4】

【図5】

【図6】



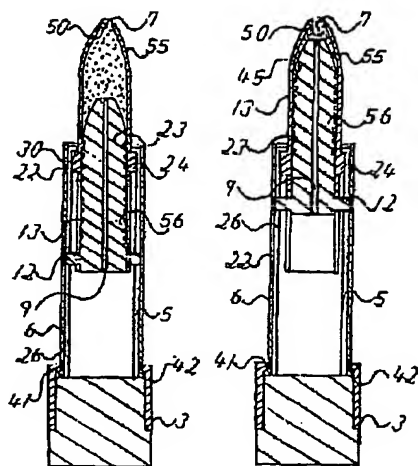
【図8】



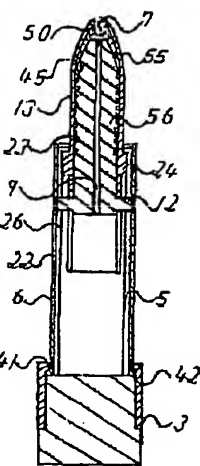
(5)

特開平9-309578

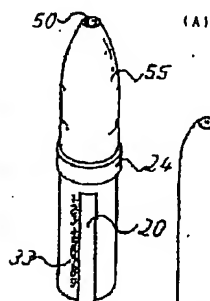
【図2】



【図3】



【図7】



【図9】

